

第53回大気環境学会併設 全国環境研協議会特別集会の概要

奈良県保健環境研究センター

第53回大気環境学会併設全国環境研協議会特別集会在、平成24年9月12日(水)に神奈川大学横浜キャンパスにおいて、大気環境学会と全国環境研協議会との共催で開催された。「PM_{2.5}に関する最新の状況と関東地域の特徴」をテーマに、4題の講演があった。

環境省の後藤隆久氏は、「PM_{2.5}対策に関する環境省の取り組み」と題して、これまでのPM_{2.5}の常時監視体制の整備状況について紹介があった。今後の取り組みとして地方自治体と連携して全国的に測定項目や調査時期を統一し、二次生成機構の解明と海外からの移流の影響の把握を進めたいと述べた。

埼玉県環境科学国際センターの米持真一氏は、「関東地域における合同調査から見た最近のPM_{2.5}の状況」と題して、関東甲信静の1都9県6市でのPM_{2.5}中のイオン成分や水溶性、不溶性有機炭素を含む炭素成分の、地域による濃度の傾向について報告した。

群馬県衛生環境研究所の熊谷貴美代氏は、「関東内陸部における微小粒子状物質の化学成分の特徴」について、捕集したPM_{2.1}のイオン成分、炭素成分とともにGC/MSによりジカルボン酸およびレボグルコサンを測定、これらの濃度の相関関係から夏季には二次有機粒子を含む二次生成の影響が大きく、冬季にはバイオマス燃焼由来の影響があることを報告した。

日本環境衛生センターの高橋克行氏は、「微小粒子状物質の試料捕集方法と成分分析方法」と題して、微小粒子状物質成分測定マニュアルの策定時に検討された、イオン成分の捕集開始時間や放置時間による測定結果への影響や炭素成分のフィルター前処理温度による測定値への影響について報告した。

近年話題のPM_{2.5}をテーマとした集会であったことから約200名もの参加者があり、関心の高さがうかがわれた。各講演とも質疑応答が活発に行われ、盛会の中に終了した。

プログラム

講演

(座長：東京都環境科学研究所 石井 康一郎)

- (1) PM_{2.5}対策に関する環境省の取り組み
環境省 山本 光昭
- (2) 関東地域における合同調査から見た最近のPM_{2.5}の状況
埼玉県環境科学国際センター 米持 真一
- (3) 関東内陸部における微小粒子状物質の化学成分の特徴
群馬県衛生環境研究所 熊谷 貴美代
- (4) 微小粒子状物質の試料捕集方法と成分分析方法
日本環境衛生センター 高橋 克行